

- 問1 為替相場において、1ドルの価値が100円から140円に変化する「円安」が進行した際、日本の家計や企業に与える影響として正しいものはどれですか。 (2025年 和歌山県公立入試 類似)

1. 輸出企業の製品が海外で割高になるため、自動車などの輸出産業の国際競争力が低下し、日本の景気が悪化する。

2. 日本円の価値が相対的に上がったことを意味するため、海外旅行の際に現地で支払うホテル代や食事代の負担が軽くなる。

3. 輸入製品の価格が上昇するため、海外から食料や燃料を輸入している企業のコストが増大し、国内の物価が上がる要因となる。

4. 輸入製品の価格が下落するため、海外ブランドの製品や輸入食材を安く購入できるようになり、家計の負担が軽減される。
- 問2 日本の人口構成において、15歳から64歳の生産年齢人口が急減する一方で、65歳以上の高齢者が増加し続けている現状が社会保障制度に与える影響として、最も適切な説明はどれですか。 (2017年 和歌山県公立入試 類似)

1. 少子化の影響で将来的な労働力不足が解消されるため、社会保障を支える財源が以前より豊富になる。

2. 高齢者人口の増加に伴って社会保障給付費の総額が自然に減少するため、財政の健全化が進む。

3. 現役世代の人数が減る一方で給付を受ける高齢者が増えるため、現役世代一人あたりの負担が重くなる。

4. 現役世代の人数が増えることで税収が安定し、一人あたりの社会保障負担額が大幅に軽減される。
- 問3 東経135度を基準とする日本が3月10日の午前7時であるとき、本初子午線が通るロンドンと3時間の時差（ロンドンより早い時刻）があるトルコでは、何月何日の何時になりますか。 (2017年 和歌山県公立入試 類似)

1. 3月10日の午後1時

2. 3月10日の午前1時

3. 3月9日の午前1時

4. 3月9日の午後10時
- 問4 日本のアイヌ民族に関する法律の歴史的な変遷をたどると、1997年に制定された「アイヌ文化振興法」から、2019年に新しく「アイヌ施策推進法」が制定されるという流れがあります。この2019年に制定された「アイヌ施策推進法」の内容として最も適切な説明を、次のうちから選びなさい。 (2024年 和歌山県公立入試 類似)

1. アイヌの人々の伝統的な文化や言語を保存・振興することのみを目的とした、最初の法律である。

2. 明治政府によって制定された、アイヌの人々の土地を取り上げ同化政策を進めるための法律である。

3. アイヌの人々を先住民族と認め、伝統文化の継承だけでなく、地域振興や観光振興なども目的としている。

4. 日本国内の特定の地域に住む住民の移動を制限し、生活習慣の改善を強制するための法律である。
- 問5 戦国時代、鉄砲の伝来などにより戦術が変化し、大規模な軍事力とそれを支える安定した領地経営が不可欠となりました。こうした中、戦国大名が領国内の紛争を禁じたり、年貢の徴収を確実にしたりする目的で定めた「分国法」の性質として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 和歌山県公立入試 類似)

1. 鎌倉時代の慣習法を整理し、武士の裁判を公平に行うために幕府が定めた法律である。

2. 幕府の許可を得た大名だけが、他国との貿易を制限するために定めた規則である。

3. 戦国大名が、室町幕府の法によらずに自らの領土を統治するために独自に定めた法律である。

4. 朝廷が全国の公家や武士に対して一律に適用した法律である。
- 問6 石の柱に刻まれた「ハンムラビ法典」には、くさび形文字で「目には目を、歯には歯を」という原則が記されている。このように、法律を文字として記録し、公開した目的として最も適切なものはどれか。 (2022年 和歌山県公立入試 類似)

1. 他国との貿易において、商品の価格や取引のルールを共通化するため

2. 特定の神官階級にのみ法律を伝え、民衆を秘密裏に支配するため

3. 裁判の基準を明確にし、広大な領土を統一的なルールで統治するため

4. 文字を読めない民衆のために、刑罰の内容を絵で分かりやすく示すため
- 問7 熊本県の江田船山古墳から出土した鉄刀と、埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣には、いずれも「ワカタケル大王」の名が刻まれていました。この事実から推測される、5世紀ごろの大和政権の勢力範囲に関する説明として、最も適切なものを選びなさい。 (2014年 和歌山県公立入試 類似)

1. 大和政権の勢力は、近畿地方とその周辺の非常に狭い範囲に限定されていた。

2. 大和政権の勢力は、九州北部から関東地方南部におよぶ広い範囲に広がっていた。

3. 大和政権の勢力は、大陸の影響を強く受けていた九州地方のみに限定されていた。

4. 大和政権の勢力は、東北地方から九州南部に至る日本列島のほぼ全域を支配していた。
- 問8 兵庫県豊岡市など、冬季の降水量（降雪量）が非常に多い豪雪地帯で見られる、社会資本や公共施設の工夫についての記述として正しいものを選びなさい。 (2025年 和歌山県公立入試 類似)

1. 積雪による破損や視認性の低下を回避するため、信号機を縦型に設置している。

2. 夏場の高温多湿な気候から精密機器を守るため、信号機をあえて横向きに長く設置している。

3. 地熱を利用して道路の雪を溶かすため、信号機の支柱内に温泉水を循環させている。

4. 強風による塩害から施設を守るため、すべての信号機に強化プラスチック製のカバーを被せている。
- 問9 民主政治における合意形成の場面で重視される「効率」という考え方の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 和歌山県公立入試 類似)

1. 限られた資源を活用し、無駄を省いてより大きな成果が得られるようにすること。

2. 対立を解決する際、特定の個人が不当な不利益を被っていないかを確認すること。

3. 誰もが平等に話し合いに参加できる機会を保障すること。

4. 多数決の結果に従わない少数意見を、社会の調和のために排除すること。
- 問10 九州地方の南部に広がる「シラス台地」では、土地の性質上の理由から古くより大規模な稲作を行うことが困難でした。このような地理的条件を背景として、この地域で特に発展した農業の形態を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2023年 和歌山県公立入試 類似)

1. 土壌が肥沃で水もちが良いため、大型機械を導入した大規模な米の単作が行われるようになった。

2. 夏の冷涼な気候を活かして、レタスやキャベツなどの高原野菜を栽培するようになった。

3. 水はけが良すぎるという土地の性質を考慮し、牛や豚、鶏などを育てる畜産が盛んになった。

4. 冬でも温暖な気候を活かし、平野部全体にビニールハウスを設置してメロンの促成栽培に特化した。
- 問11 近代民主政治における「三権分立」の目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 和歌山県公立入試 類似)

1. 国会議員の数を増やし、立法権の優越を認めることで、地方自治体との権限争いを解消するため

2. 司法の独立を制限し、国会や内閣が裁判所の判断を監視することで、国民の意見が反映されやすい仕組みを作るため。

3. 行政権の範囲を拡大することで、内閣が迅速に意思決定を行い、国の政策を効率的に実行できるようにするため。

4. 国家権力を立法・行政・司法の3つに分け、互いに抑制と均衡を保たせることで、権力の集中を防ぎ国民の権利を守るため。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 輸入製品の価格が上昇するため、海外から食料や燃料を輸入している企業のコストが増大し、国内の物価が上がる要因となる。	円安の状態では、1ドル＝100円の時よりも多くの日本円を払わなければ1ドルの商品が買えなくなります。そのため、輸入に頼っているエネルギー（石油・天然ガス）や食料品の価格が上昇し、家計にとっては物価高というマイナスの影響が生じます。一方で、輸出企業にとっては、海外で売った外貨を円に換える際の受取額が増えるため、一般的には利益が増えるメリットがあります。
問2	答え 3 現役世代の人数が減る一方で給付を受ける高齢者が増えるため、現役世代一人あたりの負担が重くなる。	日本の社会保障制度は、主に現役世代が支払う保険料などで高齢者世代を支える仕組みとなっています。少子高齢化によって、支え手となる生産年齢人口が減少する一方で、医療や年金などの給付を受ける高齢者が増加しているため、現役世代一人あたりの負担は以前よりも増大しています。これは持続可能な制度設計において大きな課題となっています。
問3	答え 2 3月10日の午前1時	日本（UTC+9）とトルコ（UTC+3）の時差は6時間であり、日本の方が時刻が進んでいます。日本が3月10日の午前7時のとき、トルコの時刻を求めるには、日本の時刻から時差の6時間を引き算します。7時から6時間を引くと1時となり、日付は変わらず3月10日のままとまります。このため、トルコでは3月10日の午前1時を迎えていることになります。
問4	答え 3 アイヌの人々を先住民族と認め、伝統文化の継承だけでなく、地域振興や観光振興なども目的としている。	アイヌ施策推進法は、アイヌの人々を「先住民族」として法的に位置づけた上で、文化の振興だけでなく、生活の向上や地域振興、観光振興などを総合的に進めることを目的としています。1997年のアイヌ文化振興法が文化面に特化していたのに対し、より広範な社会的地位の向上と地域活性化を目指しているのが特徴です。なお、明治時代に制定された「北海道旧土人保護法」は同化政策としての側面が強く、現在の法律とは性質が正反対のものです。
問5	答え 3 戦国大名が、室町幕府の法によらずに自らの領土を統治するために独自に定めた法律である。	戦国時代には戦術が騎馬戦から足軽や鉄砲を用いた集団戦へと変化し、大名は家臣や農民を効率的に動員する必要がありました。そのため、幕府の権威を否定し、自分の領国内（分国）のルールを自分自身で決定する分国法が作られました。これには「喧嘩両成敗」のように私的な争いを禁じ、大名による裁判を徹底させる内容などが含まれています。
問6	答え 3 裁判の基準を明確にし、広大な領土を統一的なルールで統治するため	ハンムラビ王は、メソポタミアを統一した際、それまでバラバラだった慣習やルールを「成文法（文字に書かれた法律）」としてまとめました。誰の目にも見える形で法律を提示することで、公平な裁判の基準を示し、王の権威のもとで社会秩序を安定させる狙いがありました。
問7	答え 2 大和政権の勢力は、九州北部から関東地方南部におよぶ広い範囲に広がっていた。	九州（熊本県）と関東（埼玉県）という、当時の交通手段では非常に遠く離れた2つの地点から同じ大王の名を記した刀剣が出土したことは、大和政権の支配力がその両地域にまで及んでいたことを客観的に証明するものです。一方で、この時代の支配が東北地方にまで及んでいたことを示す証拠は見つかっていないため、範囲の特定には注意が必要です。
問8	答え 1 積雪による破損や視認性の低下を回避するため、信号機を縦型に設置している。	豪雪地帯では、雪による被害を最小限にするための独特な景観が見られます。その代表例が縦型の信号機です。これは、信号機の灯火（青・黄・赤）を縦に並べることで、各ライトの上部に雪が溜まるのを防ぎ、雪の重みによる故障や、ドライバーから信号が見えなくなるリスクを軽減させるための仕組みです。これは日本の気候区分に応じた生活の知恵といえます。
問9	答え 1 限られた資源を活用し、無駄を省いてより大きな成果が得られるようにすること。	現代社会では、使える時間やお金、人手といった資源には限りがあります。そのため、合意をつくる過程では「かけたコストに対して十分な効果が得られるか」という視点が欠かせません。これが効率の考え方です。一方、選択肢にある「不利益を被っていないか」や「参加の機会を保障すること」は、もう一つの重要な基準である「公正」に関連する内容です。効率と公正の両立を図ることが、民主的な意思決定において求められます。
問10	答え 3 水はけが良すぎるとい土地の性質を考慮し、牛や豚、鶏などを育てる畜産が盛んになった。	鹿児島県や宮崎県に広がるシラス台地は、火山灰が積もってできた地層であり、水が地中にしみ込みやすく水田への利用が難しいという課題がありました。そのため、サツマイモなどの畑作や、広大な土地を必要とする畜産が主要な産業として発展しました。現在、鹿児島県は肉用牛や豚の飼育頭数で日本有数の規模を誇っています。
問11	答え 4 国家権力を立法・行政・司法の3つに分け、互いに抑制と均衡を保たせることで、権力の集中を防ぎ国民の権利を守るため。	フランスの啓蒙思想家モンテスキューが提唱したこの仕組みは、特定の機関に権力が集中して独裁が生まれることを防ぐために考案されました。日本の政治機構においても、国会・内閣・裁判所がそれぞれ独立して「抑制」し合い「均衡」を保つことで、国民の自由と権利が保障されるようになっています。